
不可避な犠牲†フェイトEND†

薬剤師

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

不可避な犠牲†フェイトEND†

【Nコード】

N7717H

【作者名】

薬剤師

【あらすじ】

ナギが行方不明になる前、フェイトはナギと散歩と言って外に出た。2人は立場上敵対しているが、本当は互いに《友情》に似たものを感じていた…これはそんな2人の最後の思い出となる話。【ネギま！】救世主は1人だけ！ナギENDの対となる、もう1つの話し――

凍てつくような真冬の夜のこと。はたから見れば大層な美男子が2人、暗い街道を歩いていた。

赤毛の青年はナギ・スプリング・フィールド。
白髪 of 青年はフェイト・アーウェルンクスという

「公園つて…意外と遠いな」

ナギが愚痴を言うように呟く。

どうやら2人は公園を一応の目的地として、散歩をしているらしい

「《扉》を使うかい？」

「なあ…一緒に飛ばないか？」

「浮遊術と虚空瞬動で？」

「いや、杖で」

『メア・ウィルガ（杖よ）』

もはや目的の《散歩》でなくなるような話をしているが…2人は特に疑問には思っていない

「…僕も乗るの？」

「ん？いやか？」
「いや…じゃない」

フェイトは照れているのか斜め下を向いた

「よし、ちゃんと掴まれよ」
「……………」

フェイトは無言でナギの腹を掴む

「行くぞ！」

ナギの言葉と同時に、2人を乗せた杖は空を飛んだ

そうしてしばらく飛んだのち、空中でナギの杖がガクンッ…と急停止した

《グサッ！！》

杖が止まったのとほぼ同時に、何かが突き刺さるような、破れるような音が辺りに響く

「ぐっ…かふぁっ!!」

ナギが吐いたのは真っ赤な色をした血だった

「フエイト…??お前…が…?」
「…そうだよ」

ナギの胸には太い石柱が刺さり、その体を貫通していた。
ナギの上半身はもう潰れている

「…デ…メー…」

そんな状態でここまで声が出ることが、ナギの強さを物語っている。
そして、ナギがフエイトのほうをゆっくりと振り向くと…

「……ごめんね…」

消え入りそうな、耳元で言われてやっと聞こえるくらいの大きさの
で、フエイトは一言呟いた

「…俺のほ…うが…殺られ…た…か…ふん…」

そういつてナギは自ら杖を蹴り、その下へと落ちていった。
下には森が広がっている

「しかた…ねえ…後はお前…に任せ…る…俺の…分も……生きるよ」

そして落ちていくナギの口が動く

《じゃ…あ…な……》

ナギの姿は、森の木々に消えた。

そして、フェイトは血だらけのナギの杖を持ったまま宙に浮き…

泣いていた

顔はやはり無表情だが

目から流れるそれは

美しいほど透明な

『涙』だった

くエピソードく

自ら望んで殺したわけじゃなかった

ただしかたがないとしか言えないね… 不可避な犠牲に、君が含まれていただけだ

それに… こんな感情を他人に対して抱いたのは初めてだったよ

君の命を無駄にはしない。この杖に誓おう… 僕は必ず――

「世界を… 救ってみせる…」

（後書き）

ここまで見ていただき、ありがとうございます。これが私の処女作となりました。善くも悪くも、評価して頂ければ幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7717h/>

不可避な犠牲†フェイトEND†

2010年10月11日21時49分発行